

# 再評価結果（平成21年度継続箇所）

担当課：道路局 有料道路課

担当課長名：上野 進一郎

事業名	九州横断自動車道 長崎大分線 長崎～長崎多良見		事業区分	高速自動車国道	事業主体	国土交通省及び西日本高速道路(株)
起終点	自) <small>ながさきけんながさきしはやさかまち</small> 長崎県長崎市早坂町 至) <small>ながさきけんながさきしなかざとまち</small> 長崎県長崎市中里町		延長	1.1 km		
事業概要	九州横断道の当該区間は、ながさき出島道路とともに長崎市内の渋滞緩和に大きな役割を果たしている。					
H5年度事業化	都市計画決定		—	H8年度用地着手	H8年度工事着手	
全体事業費	1,000億円		事業進捗率	60%	供用済延長	11km
計画交通量	約12,600台/日～約14,800台/日					
費用対効果分析結果 (有料)	B/C (事業全体) 1.4 (残事業) 2.0	総費用 (残事業)/(事業全体) 189/1,194億円 事業費：180/1,084億円 維持管理費：8/110億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 381/1,729億円 走行時間短縮便益：355/1,672億円 走行費用減少便益：20/27億円 交通事故減少便益：6/30億円	基準年 平成21年		
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施					
交通量変動	B/C = 2.2 (交通量 +10%)		B/C = 1.8 (交通量 -10%)			
事業費変動	B/C = 2.3 (事業費 -10%)		B/C = 1.9 (事業費 +10%)			
事業期間変動	B/C = 2.2 (事業期間 -1年)		B/C = 2.0 (事業期間 +1年)			
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>円滑なモビリティの確保(第一種空港、第二種空港、第三種空港もしくは共用飛行場へのアクセス向上が見込まれる)</li> <li>物流効率化の支援(重要港湾もしくは特定重要港湾へのアクセス向上が見込まれる)</li> <li>災害への備え(緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する)他9項目に該当</li> </ul>					
関係する地方公共団体等の意見	九州圏の域内循環を活性化させる高速交通体系の形成のため、長崎県知事を含む九州(沖縄を含む)の各県知事、北九州市長、福岡市長等から構成される九州高速自動車道建設期成同盟会より、当該区間については4車線化の要望を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	平成16年3月長崎道(長崎～鳥栖JCT)全線開通以降、交通量は増加し、平成19年の平均交通量は、10,500台/日であり、平成17～19年に渋滞が7回発生している。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	4車線の用地取得が完了し、暫定2車線にて供用中。残事業の内容は4車線化工事。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	暫定2車線にて供用中であり、4車線化工事の進捗を図る予定。					
施設の構造や工法の変更等	新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト縮減を図っていく。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は満たしており、事業実施の目途が立っている。					
事業概要図						

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。